

1 主題構成表

主題名 みんなで使う物資料名 水飲み場 (出典:文溪堂)

■ 内容項目C - (11) 規則の尊重

(中) 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

(高) 法のきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

■ 価値の分析

- ・規則の尊重とは、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことである。
- ・中学年では、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくり、自分たちの仲間や集団及び自分たちで決めたことを大切にしようとする傾向がある。また、一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりを考えることは少ない。
- ・この時期の児童には、一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切である。そこで、みんなで使うものを大切にするとは、周りの人の気持ちを考えることであることに気付き、次の人のことを考え、進んで公共のものを大切に扱おうとする心情を育てたい。

■ 内容項目から見た児童の実態(意識)

- ・図書の本やトイレのスリッパ、水道等は、みんなで使うものであり、大切に扱わなければならないことやきまりを守らなければいけないことを理解している。
- ・いざみんなで使う物が壊れたり汚れたりしていても、見て見ぬふりをして次に使う人のことを考えずにそのままにしてしまう児童もいる。

■ 要因

- ・学校生活におけるきまりは知っているが、その意義を十分に理解していないために、集団の中で自分がどのように行動すればよいか考えることができない。
- ・「自分が汚したのではない」「誰かがやってくれるから」という自分勝手な気持ちがあり、公共物や公共の場所を大切にすることでみんなが気持ちよく生活できることまで考えが及ばない。

■ 資料の分析

- ・本資料は、みんなで使う場所についての主人公と友人の行為や価値観の違いから、みんなで使うものを大切にする規則の尊重を考えさせる内容である。
- ・主人公「よしお」が水を飲もうとすると水飲み場が詰まりごみが浮いていたので教室に戻ろうとする。水飲み場が汚れているのは自分のせいではない、誰かがやってくれると思っていいよしおの気持ちに共感することができる。
- ・そこへ通りかかったひろ子は、詰まっていた花やごみを取り除いて、流し台をきれいにする。本当はひろ子にも汚い水飲み場に触るのは嫌だという気持ちがあるが、それでも周りの人の気持ちを考え、みんなのために役立とうとする公共心に気付かせたい。
- ・きれいになった水飲み場でおいしそうに水を飲むよしおと、それを見てにっこりと笑ったひろ子の姿から、みんなで使うものを大切にする気持ちよく生活できることに気付き、進んで公共のものを大切に扱おうとする心情を育てることができる。

■ ねらい

みんなで使うものを大切にすることで、自分や周りの人が気持ちよく生活できることに気付き、進んで公共のものを大切に扱おうとする心情を育てる。

■ 他の教育活動との関連

< 学校生活全般 > 次の人のことを考えて行動していた子の姿を紹介していく。

■ 事前<トイレのスリッパの使い方について>

みんなが使うトイレのスリッパの使用の仕方についてよい姿や悪い姿を知らせ、みんなで使う場所での過ごし方について考えさせる。

■ 本時
水飲み場

■ 事後<帰りの会>

帰りの会の「かがやきみつけ」の時間に、学級や学年、公共の場で、次の人のことを考えて行動できていた姿を紹介し、足跡として残していくことで価値付けていく。

■ 「私たちの道徳」の活用(授業前・授業中・授業後・活用しない)

(活用の仕方)「気持ちよくすごすためのきまりやマナーを見付けよう」(P120)を活用する。

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	校内のみんなで使う物や場所が汚れている写真を見て話し合う。 ○みんなで使う物や場所の写真を見てどんな気持ちになりますか。 ・トイレのスリッパがバラバラだと、はきにくいな。 ・図書館の本が横に倒れていると、題名が見えなくて借りにくいな。いやな気持ちになるな。	・学校の中の公共物をどのように使っているか「私たちの道徳」を活用して想起させ、本時のねらいとする価値への方向付けをする。
展開前段	資料を読んで、主人公の行動や気持ちについて話し合う。 ○感想を発表しましょう。 ・ひろ子さんは、汚いのに自分から掃除してすごいな。 ・よしおくんは、汚い場所をそのままにしてよくないな。 ○顔をしかめ「水を飲むのはやめた」と言って教室へ戻ろうとしたよしお君は、どんな気持ちだったでしょう。 ・汚いな。こんな所で水を飲むのは嫌だな。 ・自分はやってないぞ。 ・困ったな。汚いから、おいしそうじゃないな。 ○ひろ子さんが水飲み場をきれいにしているのを見て、よしお君はどんな気持ちになったか。 ・汚いって思わないのかな。 ・ひろ子さんは、進んでやってすごいな。 ・何もなかった自分が恥ずかしい。 ・自分が汚したわけではないのに、掃除してえらいな。 「わあ、おいしそう」と水を飲んでいる時、よしお君はどんな気持ちだったでしょう。 ・ひろ子さん、ありがとう。ひろ子さんは、すごいな。 ・ひろ子さんのおかげで、おいしい水が飲めたな。 ・水飲み場がきれいだから、水がおいしい。 深めの発問 よしお君は、ひろ子さんのどんな所がすごいと気付いたの。 ・みんなが気持ちよく使えるように、汚い水飲み場を綺麗にした所です。 ・ぼくも、みんなが気持ちよく使えるように、次はひろ子さんみたいに綺麗にしたいな。	・場面絵を提示し、登場人物を確認する。 ・実際に汚れた水飲み場を見せて、水は飲みたいが自分が汚したわけではないので掃除したくないという自己中心的な気持ちに共感させる。 ・汚れたところに手を入れるひろ子の行動を汚いと思っていたよしおの気持ちと、汚くても人のためにきれいにしようとするひろ子の価値観の違いについて考えることができるようにする。 ・「ひろ子さんは、どんな気持ちで水飲み場をきれいにしたのだろう。」と補助発問し、本当はひろ子にも嫌な思いがあるが、このままでは水やごみがあふれ出てしまい、だれも水が飲めなくなってしまうという気持ちがあることに気付かせる。 ・自分や周りの人のことを考えたひろ子の行動から、みんなで使う水飲み場を大切にすると、みんなが気持ちよく生活できることに気付かせ、価値を深める。 - 公共の場において、他人事と考えたり傍観したりせず、相手の気持ちを考えて公共物を大切に扱おうとする気持ちをもたせる。
展開後段	自分の生活を振り返る。 ○みんなで使うものをどのように扱い、どのような気持ちで使ってきたか道徳ノートに書きましょう。 ・習字の時間、水道の流しが墨で黒くなっていたので、自分ではないけれど他のクラスの子も嫌な気持ちがすると思ったのできれいに掃除した。 ・急いでいるとトイレのスリッパを揃えるのが面倒だと思うけれど、次の人が気持ちよく使えるように揃えてないスリッパを揃えようと思う。	・自分の生活を振り返り、道徳ノートに記入する。 ・みんなのことを考えて大切にできた時のことを思い出し、これからも公共物を大切にしようとする意欲を持つことができる。 ・事前指導をもとに机間指導をし、意図的に指名する。
終末	児童の姿を紹介する。	・公共の場所を大切にしている気持ちがよかった事例を児童の写真を示しながら話す。